2014.12.1

CIGS　イノベーション研究セミナー
『21 世紀の“日本発”を目指すイノベーション』

グローバリゼーションが深化する中、かつてウォークマンやレクサスを生んだ“Made in Japan”がその存在感を失いつつある。今なお優れた技術者と技術力を持ちながら、日本企業は、消費者の心を掴む画期的な製品・サービスを生み出す過程で、一種の閉塞状況に陥っていると言える。

少子高齢化やエネルギー・環境といった課題は、日本を含む先進諸国、更には成長著しいアジア諸国を含む世界全体の課題である。こうしたなか、日本企業が、上記閉塞状況を克服し、現有技術開発力を生かして、医療・介護ロボットや省エネ製品、更には総合医療情報システムやハイテク農業という分野で、革新的な製品・サービスを創出する可能性は大きい。

これを実現するためには、如何なるオープン・イノベーションシステム、如何なる政策的誘導が必要なのか。具体例—成功事例・失敗事例—の検討と、政策・企業政策に関して、「21 世紀の“日本発”」という視点を意識しつつ、討議を進める。

＜開催概要＞

日　時:　2014 年 12 月 1 日(月)　14:00～17:00
場　所:　フクラシア東京ステーション　会議室 H　(千代田区大手町 2-6-1 朝日生命ビル)
定　員:　100 名
開　催:　キヤノングローバル戦略研究所

＜プログラム＞

14:00－14:05　**開会挨拶**
福井　俊彦　(キヤノングローバル戦略研究所　理事長)

14:05－14:35　**セッション I**　栗原　潤　(キヤノングローバル戦略研究所　研究主幹)
『21 世紀のイノベーション—戦略的領域と政策提言－医療機器・介護ロボットを中心に』

14:35－15:05　**セッション II**　加登　豊　(同志社大学大学院ビジネス研究科教授)
『京都の企業研究グループ「逸品塾」におけるオープン・イノベーション』

15:05－15:20　**休憩**

15:20－15:50　**セッションⅢ**　延岡　健太郎　(一橋大学イノベーション研究センター教授)
『価値づくりを目指した研究開発の重要性: 市場起点から顧客視点へ』

15:50－16:55　**セッションⅣ**　パネル・ディスカッション
『21 世紀の“日本発”－制度と組織、そしてヒト』
モデレーター: 栗原　潤　(キヤノングローバル戦略研究所　研究主幹)
ディスカッサント:
加登　豊　(同志社大学大学院ビジネス研究科教授)
延岡　健太郎　(一橋大学イノベーション研究センター教授)
小林　慶一郎(CIGS 研究主幹・慶応大学経済学部教授)
鈴木　竜太(神戸大学大学院経営学科教授)

16:55－17:00　**閉会の辞**